

MFG472863

Fusion 360 が変える製造業の常識

関屋 多門
オートデスク株式会社

学習の目的

- Fusion 360 で可能なモノづくりのワークフローの効率化を理解する
- ランニングコストの削減には適切なツールの選択が大事なことを理解する
- 経費削減のアプローチは複数あり、小さなスタートから始められる
- 新たなテクノロジーが既存の”あたりまえ“を改善をすることがある

説明

現在、製造業が抱える課題は業務における作業環境の中で生み出されています。既にそれらの問題の改善に向けて、日頃よりお取り組みされているお客さまも多く、「できることはやっている」というお声も多く聞こえてきます。同時に「次は何に手を付けるべきか」といった今後の改善点への悩みも同じく散見されます。いまある環境の中は変えることができないと思われていたり、ご自身では社内の「あたりまえ」を見直すことは困難であるといったお考えをお持ちではないでしょうか？いくつか例をあげますと、・今使っている CAD の保守費用が高いけどツールを変えるのは大変。・解析まで業務範囲を広げたいけど解析ソフトは高価。・切削加工機の導入と一緒に高価な CAM ソフトを購入しなければいけない。・設計者一人ひとりに 3DCAD ソフトを使わせたいけど、コスト面の心配がある。など日頃の課題にも共通するお悩みやご経験があるのでないでしょうか。本セミナーでは上記のような課題を解決、改善するための手法を「Fusion 360」をベースにしてご紹介します。例えば、既存設計フローの簡略化、インフラ投資の削減、業務に必要なソフトの一本化、3D CAD/CAM/CAE ソフトを連携させることで達成できるコストダウンなど、あきらめていた”当たり前“を改善することができるアプローチをご紹介します。

スピーカーについて

美大を卒業後、プロダクトデザイナーとして従事。その後、Alias 株式会社を経て、Autodesk 株式会社でデザイン CAD、ビジュアライゼーションソフトウェア、機械系 3 次元 CAD など、アプリケーション エンジニアとして担当。現在は、Fusion 360 専任技術担当の職を楽しんでいる。

Fusion 360 が変える常識

クラウドのモノづくりは先の話であるという考え方

共有することで、できること

クラウドコンピューティングパワーの有効活用

CAD/CAM/CAE は別々に使うモノであるという考え方

同一プラットフォームでの設計環境を利用できる

CAD/CAM/CAE は高価なものであるという考え方

2 次元設計を 3 次元化するのに最低百万円のコストがかかる



今までの常識では考えられない投資で実現する